

表現力

## 文章表現 (物語創作・小論文)

### ●対象学科

写真／映像／デザイン／インタラクティブメディア／アニメーション／ゲーム\*／マンガ

\*ゲーム学科は留学生選抜のみ

### ●対象選抜区分

表現力選抜／留学生選抜／一般選抜Ⅱ期B方式

### ●試験の内容

以下の2つの中から1つを選択し表現する。

- ①物語創作:配付された写真と設問にしたがって、物語を創作する(800字以内)。
- ②小論文:与えられたテーマについて論文を書く(800字以内)。

試験時間:90分

持参用具:筆記用具(鉛筆・消しゴムなど)

### ●出題意図

- ①物語創作:制作においては、創造力・発想力とともに言葉で相手に気持ちを伝えるコミュニケーションの力が必要です。与えられたテーマに対する、あなたのユニークな視点、鋭い感性を物語という形式を通して表現する試験です。
- ②小論文:自分の考えを論理的に構成し、言語化することは、表現者にとって重要なプロセスです。与えられた設問を理解する力、および文章表現によるコミュニケーション能力を小論文形式で評価します。

### ●評価のポイント

- ①物語創作:感性・表現力(設問に対する洞察力、理解力／物語の展開力／発想のユニークさ、鋭さ)／技術・構成力(文意の明確さ／語彙の豊かさ／適切な文章構成力(起承転結など))
- ②小論文:テーマを論理的に解釈する力があること／文章全体の構成がしっかりしていること／文意が明確であり、文章表現によるコミュニケーション能力が認められること／文法的間違いや誤字脱字がないこと

### ●アドバイス

- ①物語創作:写真作品に限らず、例えば俳句や新聞・雑誌の見出しなどの短い表現だけを頼りに、そこを出発点にその背後にどのような表現世界が広がっているのか、ということを経験から想像してみるように心がけてみると良いでしょう。
- ②小論文:読むこと／芸術や時事問題を論じた評論や新聞・雑誌記事を読む習慣をつけましょう。書くこと／評論や記事の主張に対して、自分の考えを明らかにし、文章化する訓練をしましょう。

### 問題内容

#### ▶①物語創作 例題 (2021年度)

与えられた写真を見て、物語を創作しなさい。

- ・右の写真を物語の挿し絵として使うなら、どのような物語を想定するでしょうか。
- ・800字以内の物語を創作し、『文章表現 (物語創作) 解答用紙』に縦書きで記述しなさい。



土門拳  
「土門拳自選作品集 2」より  
ぼたんの雪  
制作:1953年  
東京工芸大学 写大ギャラリー  
収蔵作品より

#### ▶②小論文 例題 (2021年度)

右ページにある小論文の例題の文章を読み、以下の3点について答えよ。

- (1) 非接触テクノロジーとはどのような技術のことか説明せよ。
- (2) 非接触テクノロジーの長所は何か。著者の主張に従って説明せよ。
- (3) 非接触テクノロジーが普及するとどのような問題が生じると予想されるか。そして、それらを解決する方法は考えられるだろうか。あなたの考えを述べよ。

※解答は800字以内で、『文章表現 (小論文) 解答用紙』に横書きで記述しなさい。

### 参考作品 文章表現:①物語創作 (2021年度)



課題写真の細部まできちんと読み取り、それを物語の要素として活かしています。とりわけ本解答の優れている点は、刻一刻と変化する霧の状態を主人公の妻の病状と結びつけ、さらにそのことで主人公の心情をも暗示できていることです。徐々に悪化する妻の病状を思うにつれて足取りの重くなる主人公、その足元に一瞬光が差し込む。少ない文字数の中で巧みにリズムを作り、「序破急」の構成を形づくっているところも見事です。

### 参考作品 文章表現:②小論文 (2021年度)



### ②小論文 例題

無人走行するロボットが荷物を運び、公共施設の消毒を担う。新型コロナウイルスの感染拡大を防ごうと、人同士の接触を避ける技術の導入が世界で加速している。日本経済は足元のコロナ危機に加えて、労働力不足という長期の課題も抱える。これらの課題に対応するためにも、日本こそが世界に先んじて「非接触テクノロジー」の社会実装を急ぐべきだ。

英ロンドン北西に位置するミルトンキーンズでは外出制限下、米国のスタートアップ企業の宅配ロボットがスーパーから各家庭に商品を届けた。全球測位システム(GPS)やカメラを備えた車両に保冷ボックスをのせた形状で、店舗から顧客が指定した場所まで自動で配達する。同様のロボは米国や中国でも実用化が進む。

感染防止に限らず、小口の荷物を人手に頼らず運べる宅配ロボのニーズは日本でこそ大きい。インターネット通販の拡大で宅配業界では人手不足が慢性化している。特に住宅地の配達拠点から消費者宅に届ける短距離配送がネックになっており、宅配ロボはこうした問題解決の一助になる。

(中略)

まずはこうしたロボットを商用施設で活用するの一案だ。JR東日本は高輪ゲートウェイ駅で搬送ロボや消毒作業ロボを試験的に稼働させた。運用ノウハウを他の企業とも共有し、幅広い施設への導入につなげたい。

生産現場でも省人化技術を積極的に取り入れるべきだ。カシオ計算機は山形県の工場で関数電車の生産の8割を自動化したラインを9月に稼働させた。こうした動きが製造業全体に広がれば、工場のコスト競争力の向上とともに従業員らの接触も減らせる。

コンビニなど小売店でも非接触テクノロジーは有効だ。ファミリーマートは国内スタートアップ企業と提携し、商品を遠隔操作で陳列できるロボットを導入すると発表した。現金を使わないキャッシュレス決済やデジタル通貨、無人レジも活用すれば、感染対策と店舗運営の効率化につながる。

リモートワークやオンライン教育、遠隔診療の活用ももっと進めたい。感染症の第2波も懸念されるなか、情報端末と通信環境さえあれば誰もがどこでも安心して仕事や生活ができる環境づくりは喫緊の課題だ。官民を挙げて社会のデジタル化に取り組み、非接触テクノロジーの恩恵が幅広い人々に行き渡るようにしてほしい。

日本経済新聞社説(2020年9月5日)より一部抜粋

問題文で問われている3点について遺漏なく解答している点は、評価できる。特に、第3段落で、非接触テクノロジーの普及とともに発生することが予想される問題として失業者の増大を取り上げ、それを解決する方法について論理的に考察していることは素晴らしい。数カ所、文法的な誤りが見受けられる点は残念な点である。解答者が外国人であるため、今後の日本語能力向上に期待したい。